

海外研修便り②



NIHの駅：Medical Center

アメリカでの生活も、3ヶ月が過ぎ去りました。最近、病棟の患者さんのカリキュラムや、研究の様子を見学して過ごしております。具体的には、看護師が行う認知行動療法や、アンガーマネジメント、栄養士が行う栄養指導、ケースワーカーが行う講義や、ドクターが行う研究などです。その他隙間時間を活用して、論文作成等に取り組んでいます。

私なりに感じた、決定的なアメリカと日本の違いがあります。それは、とことんディスカッションするという姿勢です。プライベートにおいても、仕事においても、とにかく一日中ディスカッションしているという印象を受けます。認知行動療法も、テーマに沿ったディスカッションが中心となります。病棟のカンファレンスも、他職種のディスカッションが延々と続きます。

彼らのディスカッションの最大の特徴は、そのディスカッションが極めて対等な立場で行われているという点です。人種や、職種、上下関係、年齢、性別、あらゆる垣根を飛び越えて、平等な立場でディスカッションすることが、至極自然なこととして許されています。日本においても、他職種が、自由に平等な立場でディスカッションすることが当たり前になった時、よりよいチーム医療が、実現するのかもしれませんが。



NIH ロビーに展示されたお菓子で造られた街



NIH ロビーにて (筆者)

アメリカにも、随分馴染んできたように思います。残り3ヶ月間、存分にアメリカを吸収し、自分の視野を広げてみたい。そう、感じています。

2013年1月5日

沼野